

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	人形劇のまちづくり事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	文化会館		包含する細々目	1	10	5	7	13	1	
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	27 文化芸術の振興											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等							
		事業期間	6	年度～								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	地元人形劇団(学校のクラブ、一般のサークル、保育士劇団)、市民、職員	地元の人形劇団数と先進事例情報収集のための活動への参加者数。人形劇を通じた交流活動への参加者数。	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			20			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	人形劇指導・人形劇講座を受講してもらう。各クラブ、サークルの技術向上を図る。先進事例に学び、人形劇文化の更なる向上のための知識習得・情報収集を図る。人形劇を通じた文化交流を盛んにし、飯田独自の文化の醸成を図る。	人形劇講座・指導等の受講者数(延べ人数)と、先進事例情報収集のための活動への参加者数。人形劇を通じた交流活動への参加者数。 全受講者、参加者のうち、人形劇の技術が向上した者及び知識習得や適正な情報収集、文化交流ができた者の割合。	18目標	800	最終目標	
			18実績	800	19目標	↑
			23目標		23実績	最終目標達成年度
			18目標	100	最終目標	
		18実績	100	19目標	↑	
		23目標		23実績	最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	小中学校の人形劇クラブ、保育士、アマチュア人形劇サークルなどを対象とした人形劇研修会の開催。講師の派遣。先進事例を学び、また人形劇文化の質的向上のための視察・研究等参加。国内はもとより、世界各国との人形劇を通じた文化的交流を盛んにし、飯田独自の「人形劇文化」を地育力向上のための資源として維持継承してゆく。	・17年度までの指導職員が退職するので、新たに講師業務を委託する。 ・小中学校の人形劇クラブ、総合学習での人形劇製作などへの指導者派遣(50回)、保育士人形劇指導(12回)、竹田人形を支える会のワークショップ(18回)、小中学校クラブを対象とした人形劇講座。(鑑賞事業、指導者研修 数回) ・小中学校や保育士の人形劇育成に伴う発表会は、フェスタとは別の機会を設定する。また地育力向上支援事業との連携を図る。 ・日本国内はもとより、海外まで広範囲にわたり、人形劇を通じた文化的交流事業(米国大学生、台湾小学生、韓国人形劇フェス実行委員会)	小中学校の人形劇クラブ、総合学習への講師派遣(回) 保育士への人形劇指導(回) 竹田人形を支える会のワークショップ(回) 情報収集、先進事例研究等視察参加、交流事業(回)	80
		新たな人形劇団の育成。(人形劇講座、指導者の派遣)先進事例に学び、さらに人形劇文化を向上させるための知識習得を図る。独自の人形劇文化を通じ、世界との共生を図るべく、国際交流を文化的側面から推し進める。	小中学校の人形劇クラブ、総合学習への講師派遣(回) 保育士への人形劇指導(回) 竹田人形を支える会のワークショップ(回) 情報収集、先進事例研究等視察参加、交流事業実施(回)	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	0	
一般財源	6,031	4,210	
事業費計(A)	6,031	4,210	
人件費	正規職員所要時間	18年度	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	0	0
	トータルコストA+B	6,031	4,210

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
		人形劇のまちづくりを支える市民の数	現状値	2000	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
		人形劇団の上演数	現状値	60	19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
88年の世界人形劇フェスティバル以降、飯田市が「人形劇のまち」と呼ばれるようになる中、各小中学校に人形劇クラブ(部)が誕生した。また、保育職場や市民団体からも自分たちで上演できるようになるという動きが出てきた。しかし、実際に人形劇を経験したことのある者は少なく、学校のクラブ顧問、保育士の指導のために、平成6年にこの事業を開始した。	学習指導要領の改訂、完全学校週5日制の実施などの影響により、学校教育における人形劇クラブ活動の時間が取りにくくなっている。一方で、全市的な子ども人形劇グループを育成するには、条件が整ってきたと考えられる。 人形劇を生かした、市民の文化的交流も、これまで以上に盛んになってきている。特に世界規模の人形劇フェスタを毎年開催する地盤から考えても、世界との共生を視野にいれたなかでの市民の国際的文化交流の機会を行政として保障することが求められる。	「人形劇のまちづくり」を入づくりの政策の柱に据えていることから、その一環として人形劇創作活動の振興を求める市民の意見はある。 人形劇を通じた国際的文化交流の機運が高まっており、特にフェスティバル間の交流やホームステイなどによる、滞在型の交流を期待する声が多い。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	指導業務の委託化への切り替え 上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	